

実体経済の動向

◇生産、出荷とも前2ヵ月増加のあと減少、在庫は前月に続きかなりの減少

(生産—前2ヵ月増加のあとかなりの減少)

8月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比(注)、速報)は、-2.2%と前2ヵ月増加(6月+2.6%、7月+1.0%)のあとかなりの減少となった(前年同月比+5.2%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

8月の動きを財別にみると、建設財を除き各財とも減少した。すなわち、資本財輸送機械は、小型自動車モデルチェンジに伴うライン変更の影響もあってかなりの減少を示したほか、その他大方の品目が減少したため、全体でも前2ヵ月増加のあと大幅に減少した。また、一般資本財も、通信機械、電子計算機が増勢を続けたほか、産業用電気機械(標準変圧器)等も増加したものの、製造設備関連機器(化学機械、金属加工機械等)や農業機械、土木建設機械(ショベル系掘さく機)などが

減少したため、全体でも前月増加のあと減少となった。また、耐久消費財は、民生用電気機械(電気冷蔵庫、エアコン等)、暖ちゅう房熱機器が増加したものの、時計が輪内需頭打ちから減勢を続けたほか、ラジオ・テレビ・音響装置、小型自動車等も減少したため、全体では前月に続く減少となり、非耐久消費財も、灯油、揮発油、浴用石けん等を中心に減少した。さらに、生産財も、冷間仕上鋼材(普通鋼冷延広幅帯鋼)、板ガラス、板紙(白板紙)等が増加を続けたものの、石油製品が減産強化となったほか、石油化学製品(プラスチック等)、有機薬品(エチレン、プロピレン等)、ソーダ工業薬品、パルプ等がメーカーの慎重姿勢を映じ減少したため、全体では前月横ばいのあと小幅減少となった。

この間、建設財は、土石製品(遠心力鉄筋コンクリート管、遠心力鉄筋コンクリートパイル等)、H型鋼、銅電線が減少したものの、反面、建設用金属製品(アルミサッシ、スチールシャッター)、窯業製品(セメント、板ガラス)などが在庫調整の進展や官公需増を背景に増加したため、全体では小幅ながら3ヵ月連続の増加となった。

(出荷—前2ヵ月増加のあとかなりの減少)

8月の出荷(速報)は、各財とも軒並み減少し、全体では-2.3%と前2ヵ月増加(6月+2.2%、7月+2.0%)のあとかなりの減少となった(前年同月比+5.9%)。

すなわち、一般資本財は、事務合理化関連機器、電電関連機材が増勢を続け、クレーン、ベルトコンベヤ等も増加したものの、製造業設備関連機器(化学機械、金属加工機械)、土木建設機械(ショベル系掘さく機等)が反動減を示したほか、電力・通信ケーブル等も減少したため、全体では前4ヵ月連続増加のあと小幅減少となった。また、資本財輸送機械も、普通・小型自動車がモデルチェンジ前の出荷手控えや輸出の伸び悩みから大幅減少となったほか、バス、トラックも減少したため、全体でも前2ヵ月増加のあと減少した。さらに、耐久消費財も、民生用電気機械(エアコン、電

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)比増減(-)率・%)

	55年		56年		56年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	6月	7月	8月
鉱工業	140.5	142.6	145.0	144.5	146.1	147.6	144.3
指 数							
前期(月)比	-2.0	1.5	1.7	0.3	2.6	1.0	-2.2
前年同期(月)比	4.6	3.4	1.4	0.8	2.6	3.5	5.2
投資財	-1.2	0.1	-1.0	0.1	2.1	3.1	-3.2
資本財	1.5	1.4	-0.6	0.1	1.2	4.7	-4.6
同(輸送機械を除く)	1.4	2.0	-1.9	1.0	-0.6	3.5	-1.8
輸送機械	0.6	-2.0	5.0	-1.2	7.7	8.0	-13.9
建設財	-7.7	-3.4	-3.3	0.1	4.1	0.2	0.2
消費財	0.8	4.6	5.3	-0.7	3.4	0.2	-3.2
耐久消費財	3.8	6.0	8.1	1.2	3.6	-0.2	-2.5
非耐久消費財	-1.5	2.3	2.4	-2.3	2.6	0.9	-1.7
生産財	-4.2	0.7	0.8	-0.4	2.1	0.0	-0.2

(注) 通産省調べ。56年8月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

気冷蔵庫)が夏物製品を中心に引続き好伸したほか、内需好調の軽自動車も増加したが、反面時計が輸入需頭打ちから減勢を続けたほか、ラジオ・テレビ・音響装置(カラーTV、ステレオセット)、小型自動車、二輪自動車等も減少したため、全体では前2ヵ月増加のあと小幅減少となり、非耐久消費財も、値上げ見越しの仮需の剝落による石油製品(揮発油、灯油)の減少を主因に、かなりの減少となった。この間、建設財は、セメントが3ヵ月連続の増加を示したものの、土石製品(コンクリートブロック)、小型棒鋼が引き続き減少したほか、建築・住宅資材(建設用金属製品、H型鋼、板ガラス、ガス風呂がま)も再び減少したため、全体でも前2ヵ月増加のあと減少となった。さらに、生産財も前2ヵ月増加のあと減少となったが、これには石油製品(揮発油、軽油、A重油)の反動減が響いており、その他品目では、鋼材(鋼板、鋼帯)、繊維原料、紡績等が増加の一方、非鉄地金(アルミ地金、電気銅)、化学肥料、有機薬品(エチレン)、プラスチック(塩ビ樹脂)等が減少するなど、品目によりやや区々の動きとなった。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	55年		56年		56年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	6月	7月	8月
鉱工業指数	133.8	136.6	138.6	138.0	138.4	141.2	137.9
前期(月)比	-3.1	2.1	1.5	-0.4	2.2	2.0	-2.3
前年同期(月)比	2.1	1.1	-0.1	-0.1	1.5	3.8	5.9
投資財	-1.0	-0.9	-0.1	0.8	3.2	2.2	-2.4
資本財	1.7	0.3	0.0	1.6	2.3	3.3	-2.9
同(輸送機械を除く)	2.3	2.0	-1.6	2.7	0.9	3.3	-0.9
輸送機械	2.1	-4.4	2.1	0.7	6.1	3.3	-4.4
建設財	-6.0	-2.8	-2.9	-0.3	5.0	1.3	-1.7
消費財	-1.0	5.1	5.2	-2.6	3.0	2.8	-2.8
耐久消費財	-0.5	8.6	8.0	-3.3	2.1	2.5	-0.8
非耐久消費財	-1.3	2.9	1.8	-2.3	2.7	3.3	-2.6
生産財	-5.3	2.2	0.4	-0.5	2.2	1.3	-1.5

(注) 通産省調べ。56年8月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

(在庫—前月に続きかなりの減少)

8月の在庫(速報)は、-2.1%と前月(-1.0%)に続きかなりの減少となった(前年同月比+0.4%)。一方、在庫率指数(50年=100)は、91.2と出荷の減少を映じ前月(90.5)比0.7ポイントの上昇をみた。

在庫の増減を財別にみると、建設財を除き各財とも減少した。すなわち、一般資本財は、農業用機械、特殊産業機械、土木建設機械、事務用機械を中心に6ヵ月振りの減少となり、資本財輸送機械も、普通・小型自動車、バス、トラックが軒並み減少したため、3ヵ月振りの減少となった。また、耐久消費財は、暖ちゅう房熱機器(小型石油ストーブ)を除き、民生用電気機械、ラジオ・テレビ・音響装置等大方の品目が減少したため、4ヵ月振りの減少となり、非耐久消費財も石油製品(揮発油、灯油)をはじめ多くの品目が減少したため3ヵ月連続の減少となった。さらに生産財も、減産強化の石油製品(揮発油、ナフサ、A・C重油)が減少を続けたほか、その他大方の品目(鉄鋼素製品、化学肥料、有機薬品、繊維原料、プラスチック、パルプ、化学繊維、紡績、織物)も、在庫調整進捗を映じて減少したため、2ヵ月連続の

鉱工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

	55年 (期末)		56年 (期末)		56年		
	9月	12月	3月	6月	6月	7月	8月
鉱工業指数	114.0	114.4	116.0	117.0	117.0	115.8	113.4
前期(月)末比	3.3	0.4	1.4	0.9	1.2	-1.0	-2.1
前年同期(月)末比	10.7	8.5	8.1	6.0	6.0	3.0	0.4
投資財	4.5	1.9	0.4	1.4	2.0	1.6	-1.0
資本財	6.4	1.9	1.8	3.1	4.3	3.5	-2.6
同(輸送機械を除く)	7.3	1.4	-0.1	5.0	2.7	2.8	-1.7
輸送機械	4.3	3.0	5.8	-0.1	7.0	4.4	-4.3
建設財	2.4	-0.1	0.4	-1.3	-0.6	-1.5	1.3
消費財	2.1	-1.5	0.5	2.1	1.3	-1.3	-3.5
耐久消費財	11.3	-1.3	-6.6	2.5	2.5	0.7	-2.9
非耐久消費財	-5.1	-3.1	9.1	0.8	-0.2	-2.5	-4.2
生産財	3.4	0.5	2.6	0.1	0.5	-2.3	-0.6

(注) 通産省調べ。56年8月は速報。
前年同期(月)末比は原指数による。

減少となった。

一方、建設財は、H型鋼が減少し、建設用金属製品も横ばいにとどまったものの、小型棒鋼が輸出伸び悩み等から在庫積上りをみたほか、窯業製品(セメント、板ガラス)、土石製品(遠心力鉄筋コンクリートパイプ、コンクリートブロック)普通鋼熱間鋼管等も増加したため、全体でも前2か月減少のあと増加した。

(民間設備投資——機械受注は前月に続き増加、建設工事受注は前2か月減少のあと増加、一般資本財出荷は5か月振りの減少)

8月の機械受注(船舶・電力を除く民需)は、+2.9%と前月(+3.2%)に続き増加した(前年同月比+4.2%)。これは、非製造業からの受注は、建設機械の減少等から-0.5%と前月増加(+7.9%)のあと減少したものの、製造業からの受注が石油、自動車、機械等を中心に+3.7%(前月-0.3%)と4か月振りの増加となったことによるもの。また、8月の建設工事受注(民間分、速報)も、+2.6%と前2か月減少のあと増加した。

一方、8月の一般資本財出荷は、-0.9%(前月+3.3%)と5か月振りの減少となった。品目別にみると、事務合理化関連の事務用機械、電子計算機や電電関連の通信機械が増勢を続け、クレー

需要別機械受注・建設工事受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	55年		56年		56年		
	10~12月	1~3月	4~6月	6月	7月	8月	
民需	7,514 (36.0)	5,890 (-21.6)	5,754 (-2.3)	5,577 (-4.4)	5,064 (-9.2)	5,215 (3.0)	
同(船舶・電力を除く)	4,886 (11.8)	4,431 (-9.3)	4,362 (-1.6)	4,072 (-5.7)	4,204 (3.2)	4,328 (2.9)	
製造業	2,659 (19.3)	2,432 (-8.5)	2,471 (1.6)	2,279 (-6.1)	2,272 (-0.3)	2,357 (3.7)	
非製造業	4,618 (38.3)	3,515 (-23.9)	3,267 (-7.1)	3,277 (1.8)	2,766 (-15.6)	2,868 (3.7)	
同(船舶・電力を除く)	2,305 (7.8)	2,025 (-12.1)	1,885 (-6.9)	1,807 (-4.2)	1,950 (7.9)	1,940 (-0.5)	
建設工事受注(民間)	4,125 (4.8)	4,317 (4.6)	4,668 (8.1)	4,098 (-21.3)	3,669 (-10.5)	3,763 (2.6)	

(注) 機械受注は経済企画庁調べ。建設工事受注は建設省調べ(43社ベース)。カッコ内は前期(月)比増減(一)率(%)。

ン、ベルトコンベヤ、エレベータも前月大幅減少のあと増加したものの、反面製造設備関連の化学機械、金属加工機械や土木建設機械は前月著増の反動から大幅減少となり、電力・通信ケーブルも前2か月増加のあと減少した。

◇小売商況——乗用車販売が増加したほか、百貨店売上高も幾分持直し

8月の全国百貨店売上高(通産省調べ、前年比、速報)は、+6.6%と前月(+7.7%)に続きまずまずの伸びとなった。品目別には、家具が低調を続け、衣料品も伸び悩んだが、スポーツ、レジャー用品やエアコン等は比較的高い伸びを示した。また、9月入り後の都内百貨店売上高は、冷氣到来に伴う秋物衣料の出足好調もあって幾分伸びを高めている模様である。

9月の主要耐久消費財の販売状況を見ると、乗用車新車登録台数(軽を除く)は前年比+12.3%とモデルチェンジ車の売行き好調等から前月(+2.2%)に続き増加した。また、家電製品販売は、これまで好調を続けてきたステレオ、ラジカセ等がやや伸び悩んでいるが、VTRが好調な売行きを続けているほか、冷蔵庫、洗濯機等白物家電製品もこのところ底入れ気配を示している。

◇商況の基調——弱保合い

9月の商品市況は、冷薄、合織、合板、上質紙、コンクリートパイプ等が供給抑制に支えられ強調を示したが、秋需期入りの割には全般に荷動きが乏しく、棒鋼、非鉄、綿糸等では、輸出環境の悪化や海外安、カルテル打切りに伴う増産見込みなどもあって、市況下押しとなり、また、7月来上昇歩調をたどってきた石油製品も下旬に至り高値警戒から反落するなど、全体としては弱保合いとなった。

(卸売物価——保合い)

9月の卸売物価は、前5か月上昇のあと保合いとなった(前年同月比+1.2%)。品目別にみると、国内品は、鉄鋼(小形棒鋼)等が下落したものの、電力、一般産業向けC重油の値上げ交渉決着(56/7~9月分)や食料品(米、鶏卵等)の値上りが響

卸売物価指数の推移

(前月(期)比騰落率・%)

	ウエイト	56年		56年					最近月の 前年 同月比
		4~6月 平均	7~9月 平均	5月	6月	7月	8月	9月	
総平均	1,000.0	1.1	1.4	0.8	0.4	0.4	0.5	0	1.2
食料品	140.9	0.8	0.9	0.7	0.2	0.3	0.4	0.2	3.3
非食料農林産物	18.9	- 0.7	- 2.9	0.4	- 0.6	- 1.1	- 1.2	- 2.6	- 11.2
繊維製品	62.9	0.4	1.0	0.2	0	0.3	0.7	0.3	- 0.5
製材・木製品	33.6	- 0.7	- 1.1	1.0	- 1.0	- 0.8	- 0.4	0.9	- 8.0
パルプ・紙・同製品	28.9	- 1.9	- 0.9	- 0.5	- 0.2	- 0.3	- 0.3	- 0.3	- 6.9
金属素材	12.6	5.4	3.5	2.6	0.6	1.6	1.9	- 2.1	- 3.5
鉄鋼	80.7	1.7	2.0	0.8	1.4	0.9	0.1	- 0.6	1.0
非鉄金属	26.1	- 0.7	0.2	- 0.6	- 0.2	- 1.0	2.0	0.5	- 11.8
金属製品	37.0	- 0.5	- 1.4	0	0	- 1.0	- 0.4	- 0.2	- 2.8
電気機器	73.3	- 0.1	0.7	0.2	0.3	0.3	0.2	- 0.1	1.1
輸送用機器	74.0	1.3	0.9	1.4	0.1	0.4	0.1	- 0.3	2.4
一般・精密機器	95.7	0.5	0.3	0.1	- 0.1	0.2	0.2	0	1.0
化学製品	91.1	- 0.5	0.5	0.2	- 0.5	0.5	0.3	0.1	- 3.2
石油・石炭・同製品	102.2	5.4	5.1	3.1	2.4	0.9	2.0	0.4	11.2
窯業製品	30.5	0.1	0.3	- 0.2	0	0.2	0.1	0.1	1.8
電力・ガス	25.5	0.3	4.7	0.2	- 0.4	7.4	0.3	0.1	1.3
雑品目	66.1	- 0.1	- 0.5	0	0	- 0.5	0.1	0	1.1
工業製品	816.4	0.7	1.0	0.7	0.3	0.2	0.5	0.2	0.2
大企業性製品	579.9	1.0	1.3	1.0	0.5	0.2	0.7	0.1	1.2
中小企業性製品	214.6	- 0.2	- 0.1	0.2	- 0.2	0	- 0.1	0.2	- 2.0
非工業製品	158.1	3.3	2.3	1.3	1.2	0.8	0.6	- 0.4	5.8
国内品	801.9	0.2	0.8	0.5	0.1	0.2	0.5	0.3	- 0.2
輸出品	94.2	4.5	4.1	2.0	1.7	2.1	0.7	- 1.0	7.1
輸入品	103.9	5.6	3.4	2.4	1.9	1.2	0.6	- 1.0	6.6

(注) 日本銀行調べ。

き、+0.3%の微騰となった。一方、輸出品、輸入品は為替円高を主因に、ともに△1.0%と下落した。

用途別にみると、素原材料は、為替円高や輸入穀物等の値下りから、△0.9%と56年1月(同△1.1%)以来8か月ぶりに下落した。一方、中間品は、市況商品が保合い圏内の動きにとどまったものの、製品原材料(56/4~6月分ナフサの値上げ交渉決着)、燃料・動力(56/7~9月分C重油の値上げ交渉決着)とも上昇したため、+0.3%と続騰した。この間、完成品は、+0.2%と引続き落ち着いた動きとなった。

(消費者物価——9月<東京都区部、速報>は前月比+2.0%の上昇)

9月の消費者物価(東京都区部、速報)は、前月比+2.0%の上昇となった。これは、生鮮食品が、台風の影響による野菜の大幅値上りからかなりの上昇(+11.5%)を示したほか、生鮮食品を除くベースでも、秋・冬物衣料の高値出回りやタクシー料金の引上げを主因に+1.2%の上昇をみたことによるもの。もっとも、前年比上昇率では、+3.9%と前月(+3.6%)に続き3%台の上昇にとどまった。

消費者物価指数の推移

(前月(期)比騰落率・%)

	ウエイト	56年		56年			最近月の 前 同 月 比		
		4~6月 平 均	7~9月 平 均	7月	8月	9月			
東 京	総合	100.0	1.5	* 0.1	- 0.3	- 1.1	* 2.0	* 3.9	
	生鮮食品を除く総合 (生鮮食品)	92.7 (7.3)	1.8 (- 1.1)	* 0.5 *(- 5.1)	- 0.2 (- 2.6)	- 0.6 (- 7.1)	* 1.2 *(- 11.5)	* 3.8 *(- 5.5)	
	食料	37.6	0.6	* - 0.3	- 0.3	- 1.3	* 2.3	* 4.3	
	住居	7.1	0.7	0.3	0.2	0.1	0.3	2.5	
	光熱・水道	5.5	0.2	0.4	0	0.2	0.2	0.6	
	家具・家事用品	4.7	0.4	0.5	0	- 0.3	1.1	2.2	
	被服および履き物	9.4	3.0	- 2.8	- 2.5	- 8.1	11.3	3.1	
	保険医療	3.4	0.8	2.1	0.3	0.1	0.1	3.7	
	交通通信	9.2	3.6	2.6	0.1	0.2	1.0	6.4	
	教育	6.0	7.3	0.2	0	0	0	7.8	
	教養娯楽 諸雑費	11.7 5.4	1.0	* 0.6	0.2	1.0	* - 0.6	* 3.2	
季調済	総合	100.0	0.6	0.6	- 0.4	- 0.6	1.0		
生鮮食品を除く総合	92.7	0.5	1.1	0	0.3	0.6			
全 国	総合	100.0	1.6	...	- 0.3	- 0.6	...	4.1	
	生鮮食品を除く場合 (生鮮食品)	92.6 (7.4)	1.8 (- 0.2)	... (...)	- 0.1 (- 2.9)	- 0.4 (- 2.9)	... (...)	4.0 (5.6)	
	特 殊 分 類	農水畜産物	14.2	- 0.8	...	- 1.6	- 0.2	...	5.2
		工業製品	45.2	2.0	...	- 0.3	- 1.2	...	3.8
		うち大企業性製品	21.3	1.6	...	0	0.8	...	3.6
		中小企業性製品	23.9	2.4	...	- 0.6	- 3.0	...	4.2
	サービス	34.0	2.5	...	0.2	0	...	4.4	
季調済	総合	100.0	0.5	...	0.1	- 0.1	...		
生鮮食品を除く場合	92.6	0.8	...	0	- 0.6	...			

(注) 1. 総理府統計局調べ(55年基準)。
2. * は速報。

◇長期資本収支は5か月振りの流入超

8月の国際収支をみると、貿易収支が輸入の減少を主因に引続き高水準の黒字(1,744百万ドル、前月同2,356百万ドル)を示したほか、貿易外・移転収支も赤字幅を縮小したため、経営収支では393百万ドルと3か月連続の黒字となった。また、貿易収支季節調整後のベースでも、経常収支は851百万ドル(前月147百万ドル)と5か月連続の黒字を記録した。

この間、長期資本収支は、現先を中心に対日証

証券投資が大幅流入超をみたことを主因に5か月振りの流入超となり、この結果総合収支も601百万ドルの黒字となった。

なお、8月末の外貨準別高は、27,660百万ドルとなり、前月減少のあと再び増加した(前月末比+146百万ドル)。

(輸出——再び減少)

8月の輸出(国際収支ベース、季節調整済み)は、前月増加のあと-4.3%とかなりの落込みとなったが、数量(通関ベース)は+0.4%と微増した。

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	55年		56年		56年			前年同月
	10~12月	1~3月	4~6月	6月	*7月	*8月		
経常収支	608	△ 2,076	1,455	1,388	871	393	△ 913	
貿易収支	3,759	2,048	4,846	2,604	2,356	1,744	305	
輸出	36,514	34,924	37,451	12,590	13,359	11,645	10,104	
輸入	32,755	32,876	32,605	9,986	11,003	9,901	9,799	
貿易外収支	△ 2,810	△ 3,580	△ 3,128	△ 1,123	△ 1,299	△ 1,276	△ 1,129	
移転収支	△ 341	△ 544	△ 263	△ 93	△ 186	△ 75	△ 89	
長期資本収支	△ 445	2,592	△ 5,709	△ 1,770	△ 1,437	253	852	
本邦資本	△ 3,309	△ 4,517	△ 5,230	△ 2,660	△ 2,316	△ 1,711	△ 1,278	
外国資本	2,864	7,109	△ 479	890	879	1,964	2,130	
基礎的収支	163 (△ 669)	516 (△ 1,870)	△ 4,254 (△ 3,736)	△ 382 (△ 807)	△ 566 (△ 1,290)	646 (△ 1,104)	△ 61 (△ 356)	
短期資本収支	1,388	904	63	△ 425	△ 469	△ 354	535	
誤差脱漏	△ 879	1,004	△ 378	△ 147	254	309	405	
総合収支	672	2,424	△ 4,569	△ 954	△ 781	601	879	
金融勘定	672	2,424	△ 4,569	△ 954	△ 781	601	879	
外貨準備増減	1,464	1,788	817	102	△ 323	146	255	
その他	△ 792	636	△ 5,386	△ 1,056	△ 458	455	624	
外貨準備高	25,232	27,020	27,837	27,837	27,514	27,660	23,048	
為銀対外ポジション	△ 32,816	32,625	△ 37,447	△ 37,447	△ 38,726	△ 38,496	△ 32,291	

- (注) 1. 基礎的収支カッコ内は、貿易収支のみ季節調整した計数。
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。
 4. *印は暫定。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出 信用状
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	
55年10~12月平均	11,547 (+ 8.0)	10,572 (+ 3.5)	975	11,898 (+ 8.5)	11,972 (+ 3.8)	7,726 (+ 1.8)
56年1~3月平均	12,444 (+ 7.8)	11,310 (+ 7.0)	1,134	12,607 (+ 6.0)	12,446 (+ 4.0)	8,525 (+ 10.3)
4~6 "	12,584 (+ 1.1)	10,796 (- 4.5)	1,788	12,863 (+ 2.0)	12,020 (- 3.4)	8,340 (- 2.2)
56年 5月	12,467 (- 3.5)	11,070 (- 0.5)	1,397	12,861 (- 2.4)	12,095 (- 2.3)	8,406 (+ 0.9)
6 "	12,367 (- 0.8)	10,188 (- 8.0)	2,179	12,548 (- 2.4)	11,586 (- 4.2)	8,283 (- 1.5)
* 7 "	12,783 (+ 3.4)	11,151 (+ 9.5)	1,632	13,048 (+ 4.0)	12,450 (+ 7.5)	8,484 (+ 2.4)
* 8 "	12,235 (- 4.3)	10,033 (- 10.0)	2,202	12,292 (- 5.8)	10,784 (- 13.4)	8,254 (- 2.7)

- (注) 1. カッコ内は対前期(月)比増減(-)率(%)。
 2. 輸出信用状接受高は特殊大口を除く。
 3. *印は暫定。

品目別(通関・数量ベース)には、自動車が欧米向け自粛等の影響から大幅な落込みをみたが、合繊織物が米国、中近東向けに好伸したほか、ラジオ、テープレコーダー、船舶等も引続き増加した。

なお、9月の輸出信用状接受高(季節調整済み)は、+3.5%と前月減少のあと再び増加した。品目別には、鉄鋼が減少したものの、化学製品、繊維製品、自動車、電気機械はいずれも増加した。

(輸入——著減)

8月の輸入(国際収支ベース、季節調整済み)は-10.0%と著減し、また数量(通関ベース)も4.4%の減少となった。品目別(通関・数量ベース)にみると、小麦、砂糖等が増加したものの、原油をはじめ鉄鋼石、綿花、非鉄金属鉱もかなりの減少を示した。